

2004-2006年モデルのビッグツインの注意 (2006年Dynaを除く)

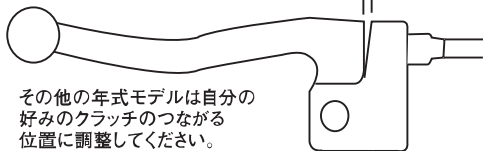
該当するモデル期におきまして、クラッチのすべりに関するお問い合わせを多くいただきましたが、すべてのケースが、下記の資料にある調整で解決しました。

ご参考にしていただけましたら幸いです。

- 2004年モデルでヘリカルギアが使用され4速でヘリカルギアによりクラッチがメインシャフトごとクラッチプッシュロッドに向けて引っ張られ、結果クラッチが切れた状態となるため、アジャスタースクリーの調整及びクラッチケーブルのアンピが他年式モデルよりも多く必要です。アジャスタースクリーはマニュアル通り、軽く当たったところから1/2から1回転戻してOKですが、クラッチケーブルは出来るだけ多くアンピを作ってください。ストロークの短くなるクラッチレバーに交換した場合(太いグリップも同様)クラッチが切れにくくなりますので注意が必要です。
- 2006年のDynaモデルを含む2007年以降のビッグツイン(6速)ではヘリカルギアの方が以前モデルと逆になっており、この問題は全くありません。むしろアンピが少ないとスロットルを戻した時にクラッチが切れる状態になるためバックトルクリミッターが効いたようになります。マニュアル通りに調整していただければOKです。

ケーブルを引っ張らないでクラッチレバーとホルダーの隙間を計る。

'04-'05 2mm以上



注1 すべての'98モデル及び3穴ダービーカバーモデルにVPC装着の際ダービーカバーベースサーもしくはダービーカバー内側のリブを切削加工する必要があります。またすべての年式においてノーマル以外のダービーカバー(03アビバーザリーモデルを含む)装着車はダービーカバーベースサーまたはダービーカバーの切削加工が必要となります。5穴ダービーカバーは本カタログに掲載の型紙を使用してクリアランスをチェックできます。必ずエンジン始動前にダービーカバーなどのクリアランスをチェックしてください。エンジン回転上昇と共にクラッチもだんだん重くなっていきます。

